

平成25年度

応募件数 54件 助成件数 7件

団体名	所在地	活動内容の概要
<p>ふるびら. FAN 理事長 田名辺 信行</p>	<p>古平町</p>	<p>海業による地域体験型プログラムの創出と海業コーディネーターの育成による地域活性化 海業の先進地である岩手県田野畑村をモデルに、古平町の地域資源を生かした体験型プログラムを創出し、新たな産業づくり及びまちづくりを行う。また、海業コーディネーターを育成し、新規就業者の指導やサポートにあたることで定住人口を増やし、古平町の活性化に資する取り組みを行う。</p>
<p>サイエンスカフェinちとせ実行委員会 実行委員長 長谷川 誠</p>	<p>千歳市</p>	<p>サイエンスカフェinちとせ 千歳市のまだ知られていない魅力を研究者や専門家と共にお茶を片手に気軽な感じで話し合う「場」を創設する。 札幌市では北海道大学が中心となって行っているサイエンスカフェがあるが、千歳市においてはまだまだ未知の手法である。今まで散発的に行ってきたサイエンスカフェを今回、継続的に行い、「あそこに行ったら何かがある」と市民の好奇心を喚起し、中心街に人を呼び寄せ、活性化の一翼を担うものとする。加えて、子どもたちに地域のことを深く知ってもらう「場」とする。国策として科学技術で国を成り立たせていこうというとき、科学の体験がたくさんできる環境で子どもや若者を育てることは大変重要と考える。</p>
<p>特定非営利活動法人食の絆を育む会 理事長 近江 正隆</p>	<p>浦幌町</p>	<p>農村生活体験から考える教育課程創造プロジェクト 次代を担う子どもたちにとって、農林漁業者宅での生活体験（農村ホームステイ）は大きな学びの場である。食やいのちの大切さを体で感じ、心で受け止める体験からの学びは、子どもたち自身が将来の自分の生き方や社会との関わりを考える上でも大切なことであり、幅広い分野での教育的効果があると考えられる。そこで本活動では、将来的に学校教育の現場で展開することを目標と定める中で、生きるチカラを身につけることを目的とした「農村生活体験から考える教育課程」を創造していき、その検証を行っていく。</p>
<p>東オホーツクシーニックパイウェイ連携会議 代表 高谷 弘志</p>	<p>網走市</p>	<p>「ちょっと寄り道」で地域の魅力を知るイベントの開催 通過型観光地が多い東オホーツクでは、観光客の「滞在日数」増加は、宿泊インフラ整備等がなければ十分な効果は発揮できない。対応策としての短期・中期的取り組みとして、「滞在時間」を増加させ、限られた滞在時間を割いて、寄り道して地域の魅力を短時間で体感していただく、地域にお金を落とすとしていただく、以下のメニューを実施し、観光客の評価、ニーズを把握し、取り組みを高度化させる。 実施メニュー概要 ・ 地元農工商業者との連携により、地域色豊かな野菜や果物・特産品などの販売を行う「シーニックマルシェ」の開催。 ・ 無料の電動アシスト自転車貸し出しコーナーを併設し、立ち寄った観光客に対して近郊の隠れた地域資源を巡る自転車観光ルートの提示と参加を促す。 ・ 上記取り組みに関する参加者のニーズ・評価を把握する。</p>
<p>とよかんべつ交流大学 学長 山田 健一</p>	<p>浜頓別町</p>	<p>とよかんべつ交流大学 2009年、地域活性化の核になっていた小学校が閉校したことを受けて、とよかんべつ交流大学を設立し、地域住民のコミュニティや都市と農村の交流を通して地域活性化を推進。さらには、交流活動に参加する都市住民に新規就農や移住への関心を高めてもらうことを目指している。 こうした活動は旧校舎を拠点に行っているため、閉校校舎の有効活用にもつながっている。</p>
<p>津波避難サポートプロジェクト 代表 西村 裕一</p>	<p>札幌市</p>	<p>釧路市における住民参加型の津波防災集会の実施 津波避難サポートプロジェクト（つなサップ）は、地元の町内会や行政機関と連携して、2008年から道内8カ所所で数10人規模の津波防災集会を実施してきた。今年度は、津波リスクが高い釧路市の3つの地区において住民参加型の津波集会を企画・実施する。 各集会は事前準備、集会の実施、フォローアップをセットとして行う。フォローアップとは、集会の報告を兼ねた「通信」の発行と町内会長や防災関係者との事後の情報交換である。これは、集会を単発で終わらせるのではなく、防災を通して地域活性化を図り、将来的には地元が主体となって継続的に実施できる体制の確立を目指すために重視したいと考えている。</p>
<p>特定非営利活動法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト 理事長 坂本 純科</p>	<p>札幌市</p>	<p>余市エコカレッジの立ち上げ 余市エコカレッジは「持続可能な暮らしと社会」をテーマに、地域全体が学びの場とプログラムを提供する実践型カレッジを目指している。本活動では余市の資源である農業や醸造を活かしたフルーツ体験ツアー、スイーツコンテストなどのイベントを実践しながら、カレッジのコンテンツ開発を行う。イベントの企画運営を大学生が中心になって行い、農業や歴史、経済、環境など生きた学びを重ねるとともに、社会に出てから必要なグループワークやコミュニケーションスキルを磨く機会とする。また、関わった学生や都市住民が深く地域を知り、余市ファンとなることで、継続的に支え合う関係構築を目標とする。</p>